

- 問1 北海道における人口分布の変化について、1950年から2010年までの統計的な傾向を説明した文として正しいものはどれですか。なお、この期間において北海道全体の人口は約430万人から約551万人へ、札幌市の人口は約62万人（1960年）から約191万人へと推移しています。（2016年 群馬県公立入試 類似）
- 北海道全体の人口が緩やかに増加する中で、札幌市の人口はそれを大きく上回るペースで増加した。
  - 北海道全体の人口増加に比例して、道内すべての市町村の人口が均等に3倍以上になった。
  - 札幌市の人口は1960年から2010年にかけて、北海道全体の人口増加分を補えないほど減少した。
  - 道内人口に占める札幌市の割合は、1960年から2010年にかけて一貫して減少傾向にある。
- 問2 1960年から2010年までの50年間で、札幌市の人口は約62万人から約191万人へと3倍以上に急増しました。北海道全体の人口が1950年の約430万人から2010年の約551万人へと緩やかな推移を見せる中で、このような札幌市の人口動態が北海道全体に与えている状況として最も適切なものはどれですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）
- 道内人口に占める札幌市の割合が一貫して上昇し、札幌市への一極集中が進んでいる。
  - 札幌市の人口増加率よりも北海道全体の人口増加率の方が高く、人口の分散が起きている。
  - 道内の各都市が札幌市と同様のペースで成長したため、札幌市の人口占有率は低下している。
  - 北海道全体の人口が減少局面に入ったことで、札幌市の人口も2010年に向けて激減した。
- 問3 1899年に制定された北海道旧土人保護法が廃止され、アイヌの人々の民族としての誇りを尊重し、その伝統や文化の保存・振興を図ることを目的として1997年に施行された法律の名称を答えなさい。（2023年 長野県公立入試 類似）
- アイヌ文化振興法
  - アイヌ新法
  - アイヌ民族支援法
  - 北海道開発法
- 問4 北海道に古くから居住し、自然を敬う独自の文化や独自の言語を持っている先住民族を何と呼びますか。最も適切な名称を選択してください。（2026年 愛知県公立入試 類似）
- アイヌ民族
  - ラテン民族
  - スラブ民族
  - モンゴル民族
- 問5 北海道の都市である根室市と札幌市の気象統計を比較すると、夏季（特に6月から8月にかけて）の根室市の日照時間は札幌市よりも著しく短いことがわかります。この要因となっている気象現象を何といいますか。（2019年 静岡県公立入試 類似）
- 海霧
  - やませ
  - フェーン現象
  - ヒートアイランド現象
- 問6 北海道の農業について、生産統計で全国の約78%のシェアを占める「じゃがいも」と、約79%を占める「てんさい」の共通する特徴として最も適切な説明はどれですか。（2018年 長野県公立入試 類似）
- 亜熱帯の温暖な気候を好む作物である
  - 寒冷な気候での栽培に適した作物である
  - 水はけの悪い湿地での栽培に適した作物である
  - 成長に大量の高温多湿な環境を必要とする作物である
- 問7 北海道の人口分布の変遷について述べた次の文のうち、1950年代後半から現在にかけての状況を正しく説明しているものはどれですか。統計上、札幌市の人口は1958年の約48万人から、2018年には約195万人へと、60年間で約4倍に増加しています。（2021年 宮城県公立入試 類似）
- 札幌市への一極集中が進み、道内の他の地域から人口が流入することで、北海道全体の人口に占める札幌市の割合が大幅に上昇した。
  - 道内各都市でバランスよく開発が進んだため、札幌市以外の旭川市や函館市でも、札幌市と同等のペースで人口が増加し続けている。
  - 札幌市の人口は増加したものの、北海道全体の人口増加率がそれを上回っているため、道内における札幌市の人口シェアは低下傾向にある。
  - 1970年代以降、札幌市ではドーナツ化現象による人口減少が激しくなり、現在は1950年代当時の人口規模を下回っている。
- 問8 北海道の太平洋側に位置する苫小牧市の気候の特徴について、年間を通じた気温と降水量の傾向を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 長野県公立入試 類似）
- 年平均気温が8度前後で、夏（7・8月）の平均気温が20度程度と冷涼であり、冬の降水量は日本海側の都市と比較して非常に少ない。
  - 年平均気温が15度を超え、年間を通じて温暖であるが、梅雨の影響を受けにくいので、夏よりも冬の降水量が極端に多くなる。
  - 日本の典型的な日本海側の気候を示し、冬は北西の季節風の影響で雪が多くなるため、夏よりも冬の降水量が大幅に上回る。
  - 内陸部に位置するため夏と冬の寒暖差が激しく、夏は30度を超える日が多い一方で、年間降水量は1000mmに満たない。
- 問9 北海道のオホーツク海沿岸で見られる流氷と、その地域への影響について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）
- シベリア沿岸で生まれた氷が南下してくるもので、冬の重要な観光資源として活用されている。
  - 暖流の影響で海水が蒸発して氷になったもので、夏の冷害を引き起こす原因となっている。
  - 太平洋側から北上してくる大規模な氷山で、冬の間の船舶の往來をすべて止めている。
  - 日本海の雪が海に流れ出て固まったもので、主に水田の灌漑用水として利用されている。
- 問10 北海道東部の太平洋沿岸地域において、夏の気候に大きな影響を与える「海霧」の要因となる、海流の名称と季節風の向きの組み合わせとして正しいものはどれか。（2024年 石川県公立入試 類似）
- 親潮（千島海流）と南東の季節風
  - 黒潮（日本海流）と北西の季節風
  - 親潮（千島海流）と北東の季節風
  - 対馬海流と南東の季節風
- 問11 北海道の北東側に位置する海域では、冬季になるとシベリア沿岸から流れてきた氷が接岸し、一面が白く覆われる光景が見られます。この海域の名称と、押し寄せる氷の名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）
- オホーツク海 — 流氷
  - 日本海 — 流氷
  - 太平洋 — 樹氷
  - オホーツク海 — 樹氷
- 問12 日本には、知床、白神山地、屋久島、小笠原諸島、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島の5つの世界自然遺産があります。これらが位置する北海道、青森県、秋田県、鹿児島県などの道県のうち、青森県（青森市）、秋田県（秋田市）、鹿児島県（鹿児島市）のように県名と県庁所在地名が一致する自治体がある一方で、北海道は名称が異なります。世界自然遺産である知床を有し、道庁所在地が置かれている都市の名称を答えなさい。（2018年 千葉県公立入試 類似）
- 札幌市
  - 青森市
  - 鹿児島市
  - 秋田市
- 問13 明治時代、ロシアなど北方からの脅威に備える警備と、北海道の土地の開拓を同時に行う目的で送り込まれた兵士とその家族を何と呼びますか。（2016年 群馬県公立入試 類似）
- 屯田兵
  - 開拓使
  - 守護代
  - 防人

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 北海道全体の人口が緩やかに増加する中で、札幌市の人口はそれを大きく上回るペースで増加した。	数値データを確認すると、北海道全体では約1.3倍の緩やかな増加であるのに対し、札幌市は50年間で3倍以上に達しています。札幌市という一つの都市が、道全体の人口成長を牽引すると同時に、道内の他の地域から人口を吸収する形で拡大を続けてきたことが読み取れます。これが道内における人口集中の実態です。
問2	答え 1 道内人口に占める札幌市の割合が一貫して上昇し、札幌市への一極集中が進んでいる。	北海道全体の人口が緩やかな伸び、あるいは横ばい傾向にあるのに対し、札幌市の人口は1960年から2010年の間に約3倍以上という極めて高い伸び率を記録しています。この結果、北海道の総人口に対する札幌市の人口が占める割合は上昇し続けており、特定の都市に人口や経済機能が集中する「一極集中」という地理的特徴が顕著になっています。
問3	答え 1 アイヌ文化振興法	明治時代以来、政府はアイヌの人々に対して日本語の使用や生活習慣の変更を求める同化政策を進めてきましたが、1990年代に入り国際的に先住民族の権利への関心が高まったことを背景に、この法律が制定されました。アイヌの人々の独自の文化を日本の貴重な文化遺産として位置づけ、その継承や普及を国が支援する仕組みが整えられました。
問4	答え 1 アイヌ民族	北海道には本州とは異なる歴史があり、古来より独自の言語や文化を育んできた人々が暮らしてきました。現代では、彼らの権利を尊重し、伝統を次世代へ継承するための取り組みが地理的・歴史的観点から重視されています。
問5	答え 1 海霧	北海道の太平洋側に位置する根室市や釧路市では、夏に発生する「海霧（移流霧）」の影響を強く受けます。暖かく湿った空気が親潮の冷たい海面によって冷やされて発生するこの霧は、長い時には数日間にわたって沿岸部を覆うことがあり、夏場の日照時間を大幅に減少させる直接的な原因となっています。一方、内陸や日本海側に位置する札幌市などはその影響を受けにくいと、日照時間に大きな差が生じます。
問6	答え 2 寒冷な気候での栽培に適した作物である	北海道は梅雨の影響が少なく、夏でも比較的涼しいという気候の特色があります。この条件を活かし、寒さに強い「じゃがいも」や「てんさい」といった作物の栽培が大規模に行われています。じゃがいもは食用やでんぷんの原料、てんさいは砂糖の原料として、全国の食卓を支える重要な農産物となっています。これらは稲作が困難だった寒冷な地域において、重要な基幹作物として発展してきました。
問7	答え 1 札幌市への一極集中が進み、道内の他の地域から人口が流入することで、北海道全体の人口に占める札幌市の割合が大幅に上昇した。	北海道では、県庁所在地である札幌市に行政・経済・文化の諸機能が集中する「一極集中」の傾向が顕著です。1950年代後半以降、石炭産業の衰退などによって道内他地域の人口が減少する一方で、サービス業や商業が集積する札幌市には仕事や利便性を求めて人々が集まりました。この結果、北海道全体の人口が減少に転じてからも、札幌市およびその周辺都市圏の人口が占める割合は高まり続けています。
問8	答え 1 年平均気温が8度前後で、夏（7・8月）の平均気温が20度程度と冷涼であり、冬の降水量は日本海側の都市と比較して非常に少ない。	苫小牧市は北海道の太平洋側に位置しており、寒流である千島海流（親潮）の影響を受けるため、夏でも平均気温が20度前後と冷涼な気候になることが大きな特徴です。また、冬は大陸からの湿った季節風が山脈によって遮られるため、金沢などの日本海側の都市に比べて降水量（降雪量）が非常に少なくなります。年間の降水量は1200mm程度であり、極端に乾燥しているわけではありませんが、冬の乾燥と夏の冷涼さが太平洋側の気候を象徴しています。
問9	答え 1 シベリア沿岸で生まれた氷が南下してくるもので、冬の重要な観光資源として活用されている。	流氷はシベリア沿岸で発生し、海流に乗ってオホーツク海を南下して北海道の北東部に到達します。かつては漁船の出港を妨げるなどの負の側面が強調されましたが、現在では砕氷船（ガリンコ号やオーロラ号）による観光や、流氷とともにやってくるクリオネなどの観察といった観光資源としての側面が重視されています。他の選択肢にある冷害の原因は主に夏の「やませ」などであり、流氷の性質とは異なります。
問10	答え 1 親潮（千島海流）と南東の季節風	北海道東部の太平洋沿岸では、夏に南東から湿った空気が流れ込みますが、この空気が千島列島付近から南下してくる寒流の「親潮（千島海流）」の影響を受けることで冷やされ、濃い霧が発生します。この現象は、この地域の夏の気温が上がりにくい一因ともなっており、農作物の生育に影響を与える「冷害」の原因になることもあります。
問11	答え 1 オホーツク海 — 流氷	北海道の北東部に面するオホーツク海では、冬になるとアムール川河口付近で凍った海水が風や海流に乗って南下し、流氷となって海岸に到達します。これに対し、日本海側は対馬海流（暖流）の影響を受けるため流氷は見られず、樹氷は山地の樹木に水分が凍り付く現象を指します。
問12	答え 1 札幌市	都道府県名と都道府県庁所在地名が異なるケースは、全国で18の府県（北海道を含む）にあります。北海道の場合、道庁が置かれているのは札幌市です。また、北海道にある知床は、北半球における流氷の南限であり、海と陸の生態系がつながっていることなどが評価され、世界自然遺産に登録されています。
問13	答え 1 屯田兵	明治政府は、ロシアの南下政策に対する国防上の必要性と、広大な未開地の開発を両立させるため、1874年に屯田兵制度を設けました。主に士族（元武士）が家族とともに北海道へ渡り、厳しい自然環境の中で現在の札幌や旭川といった地域の発展の基礎を築きました。